

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 11月 10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200338		
法人名	社会福祉法人IGL学園福祉会		
事業所名	IGLグループホーム西風新都		
所在地	〒731-3167 広島市安佐南区大塚西2丁目5-8 (電話) 082-848-3313 (代表) 082-848-3373 (直通)		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200338-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

IGLグループホーム西風新都では、利用者様お一人おひとりの尊厳を守り、その人らしい生活を支えるケアを実践することで、充実した、寂しさや不安を感じない、楽しみのある生活が送られるよう支援しています。特に歩行機能の維持をするために、施設内ではありますが職員と会話を楽しみながらの散歩に力を入れています。地域密着型施設として、フットワーク軽く地域行事に参加をしていますが、新型コロナウイルスの感染防止のため、地域交流・家族との時間作りが難しくなる中、利用者のご家族の関係が希薄にならないように写真やメール・ズーム面会・ガラス越し面会などの活用をしています。認知症ケアにチームで取り組み、職員同士がお互いに思いや考えを発信しやすい環境を作り、一人ひとりの個別性を尊重したケアを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

IGLグループホーム西風新都では、利用者本位の支援を心掛け、その人らしい生活が過ごせるよう常に真摯な態度でケアに取り組んでいる。職員は何事にも前向きで、コロナ禍で実践しにくい場面は多々あるが、話し合いを重ね工夫をしながら、利用者にあったサービスを、実践に繋げるよう取り組んでいる。利用者が毎日の多くの時間を過ごすリビングでは、季節に応じたイベントをこまめに計画し、飽きる事のない楽しい生活を目指している。食事においても季節の料理や、毎日の食事に使う器にもこだわり、献立も刺身や海鮮丼など多岐に及び、自宅での食卓を思い起こさせる雰囲気大切にしている。また職員は法人のスケールメリットを活用しながら、それぞれサービスの向上を目指し、更に進化出来るよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	I G Lの理念は「隣人愛」である。事業所理念は「地域から、入居者から、愛される施設」、利用者に対しては「あなたでよかったと言い合える関係作り」を理念として挙げている。4月の施設内研修では、「仕事の約束」という冊子を作りI G Lの理念の実践を共有するため読み合わせをしている。	法人の理念である”自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい”を毎日申し送り時に確認し支援に取り組んでいる。支援に迷いが生じた場合は、職員全員が所持している「仕事の約束」を読み直し、行き詰った時は立ち止まり、理念に基づき振り返り、実践に繋げるよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の季節の行事には積極的に参加を行っていたが、新型コロナウイルスの流行、感染対策のため、事態は一変しており、現在は季節のドライブを行う程度しか外には出ていない。交流も断たれた状態である。コロナ下での地域交流は大きな課題となっている。	近隣への外出はコロナ禍の影響で困難な為、地域とのつきあいは以前のように出来ていない。現在は、天気の良い日には紅葉ドライブを企画し、地域との関わりを絶たないよう支援に努めている。職員は他施設のイベント情報も参考に活動の様子を確認し、地域と繋がるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の理解や関わり方や、当施設を知ってもらうための活動等して行きたいのは山々だが、現状は利用者をコロナ感染から守る事を最優先にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	通年を通して、地域の民生委員・関連施設・訪問看護や地域の社協の方などにお越しいただき、入居者様にも参加していただき開催していたが、この3年間開催は施設内の職員入居者様のみで、施設外の方々にはFAXでの情報共有とさせて頂いている。昨年指導を受けた、推進委員会での報告事項に関するご意見を頂けるようにしている。	運営推進会議は定期的開催し、コロナ禍においては書面会議の形式が多く、多職種の関係者や家族に事前に意見をもらいながら、より良いサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。議事録は毎回関係者に送付し更なる意見交換に繋げている。	現状ではこの運営推進会議の討議内容が議事録として家族に届けられていない。今後の改善課題の情報共有のためにも、特に遠隔地に在住の家族を中心に、この会議録の送付についての対応を期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市には、施設内で行った運営推進会議内容を報告している。認知症リーダー研修参加、Web研修での認知症基礎研修参加を行っている。	日頃から協力関係を築く努力はある。市町が主催するWeb研修(基礎研修や実践者研修)に職員は参加し、施設内の毎月の勉強会で報告を行っている。コロナ禍ではあるが、今後も市町と連携を取り情報を共有し、途切れない関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、I G L内での全体研修に加え、施設内・GH内でも研修を行ってきた。基礎的知識は資格の有無に係らずついてきているが、リスクを取るばかりに、行動を制限することが無いようにその都度職員同士での話し合い、グレーゾーンを意識するようにしている。玄関施錠はしていない。	身体拘束をしないケアの大切さについて、研修や実践をもとに把握している。例えば夜間コールセンサー(職員はセンサーにより見守りが出来る)や居室に有るイスを利用し、自室に有るトイレまでの動線を作ることで転倒防止に役立っている。また言葉による拘束にも気配りをしながら支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については、身体拘束と同様の取り組みを行っている。認知症高齢者であり、家族の面会も皆無となると、知らず知らずのうちに。スタッフ優位の関係に陥りやすい事を意識し、利用者への言動や言葉使いや呼び方などについて注意喚起を行っている。今年度は、利用者への態度を特に意識して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	虐待と同様に権利擁護についても研修を行っている。利用者が、自分本位で選択をし、自分の尊厳(自分らしさ)を守られながら暮らすとは、利用者が日常的に不安や心細さや遠慮を感じずに、晴れやかな気持ちで過ごせる事である。日々の行うケアで、対象を尊重した態度を常にとるように指導を行っている。施設内の社会福祉士より、成年後見についても学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度の新規契約は、現在3件である。運営規定・利用料金・重要事項説明書の説明を行い、何度も連絡を取りながら疑問点には答えるようにしている。情報の不均衡が生じ、説明が専門用語で分からない事もあるので、理解を確かめながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会制限があるため、施設内の生活の状況が、利用者の家族には見えにくくなっている。家族の一番の願いは、顔を見て話したい、姿を見たいという事と感じている。ガラス越し面会などを取り入れている。コロナ発生時などは、電話・ショートメールを活用し毎日状況報告を行った。話しやすい雰囲気を作り、必ず不明点・疑問点があればなんでも話していただくようにそのたびに声をかけている。	新型コロナウイルス感染症が蔓延している現在、面会方法を制限し家族の要望が反映出来ないことも有る。利用者の様子は定期的に、電話や家族によってはリモートで面会するなど支援している。利用者や家族の要望は、出来るだけ運営に反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	介護現場に、介護職員とともに管理者がいるので、いつでも聞ける体制となっている。今年2月には、施設長面談があり、1人30分に及ぶ面談を行った。毎月のミーティングでも、ケア方法に関する意見や業務に関する意見を出し合っている。平素の職員の人となりを知り話しやすい雰囲気を作るように努力している。	事業所は、働きやすい環境を作る為の体制づくりを行っている。職員からの意見は会議の場のみならず、施設長による個人面談を様々な場面でやっている。業務改善においては、コールセンサーの利用法・排泄のタイミング・食事のトロミ具合等、細やかな日々の改善を話し合い、必要に応じて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長補佐、管理者、チーフ間で、職員の勤怠の把握や家庭の事情や本人の体調などを汲んだ勤務体制作り、認知症ケアにおける対応方法や考え方の指導を行い、一緒に試行錯誤する場を作るようにしている。マイナス点ばかりを指摘せず、話をじっくり聞き、よく理解したことを示したうえで指摘をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	最近はズーム研修も多くなっているので、時間を作り研修を受けるようにしている。施設内研修の講師を、職員に担当してもらう事でケアの学習の機会にしている。新規採用者には施設長補佐・管理者がオリエンテーションを行い相互理解に役立っている。施設長補佐・管理者・チーフで、ケアに問題がある時は情報共有し対応するようにしている。話しやすい環境作りを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染対策のために、同業者との直接的な交流がなくなっている。必要に応じて電話やメールを活用している。コロナ感染対策や発症時の対応などについて情報交換することが多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今年度は新規利用者が現在3名である。新型コロナウイルス感染対策のために入居したら面会が出来なくなることへの負担感ご家族にあり、いつでも会えるから、もう会えないとなりさみしさを隠し切れない様子である。新規利用者のリスク管理に配慮しながら新しい生活に慣れて行くための支援とともに家族への支援にも力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>前項でも記入したが、コロナ感染対策のための面会謝絶に伴い、ご家族には余計に不安の増強がみられる。入居後の様子を伝えるとともに、ご家族からの情報に耳をから向け、信頼関係を結び話しやすく何でも言っで貰えるように関係作りを行う。逆に、かかわりを持ちたくないと思う家族もいらっしゃるのでは、事情をよく把握する。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>グループホーム入居の際に、必要なサービスの選定については、医療的な側面での主治医の変更か続行かという事、ADL上の本題での福祉用具、栄養面での問題などがある。問題を明確にし職員間で共有し観察を行い、利用者の生活の様子を把握し解決していく。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ともすると、生活の場が職員の業務遂行の場になってしまう可能性がある。利用者が、生活者としての活動を行い実感できるような環境作り、ささやかな事であっても、自分で行う・役になっている、自分の仕事と本人が満足できる生活を送ってもらえるように職員に環境作りをしてもらう。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族とは、特に親子とは、切っても切れない関係で結ばれている。年を取った親に「忘れられてしまうのではないか」「次に会ったときは名前を言っても分からないのではないか」という不安を持っているご家族も少なくない。生きているだけでいいと言われる方もある。面会・連絡の工夫をして、家族の気持ちに答える支援をしていく。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者には、今まで生きてきた人生があり、懐かしい方や家族同然の方や、遠方に済む親族などかけがえの無い存在がいるものであると、職員全員が理解をして、写真や電話やビデオ通話などを使って関係を保つ。また普段の会話でも、話題に出して利用者の話を聞くようにしている。</p>	<p>馴染みの場所に出掛ける事が困難な現状で、出来る限り馴染みの人との繋がりを大切に支援している。例えば定期的に訪問がある理美容院や、以前居た職員と挨拶を交わす事も有る。日頃は隣同士のユニットとの行き来が行われており、職員は途切れない関係の継続を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	9名のユニットでの日々の生活の中での仲間さん作りを行う。毎日、レクや体操やゲームを行ったり、気の合う仲間と歩行を楽しんだりしてお互い様の関係を構築できる様に関わる。会話や一緒に声を出す、何かを作るなどの場を積極的に提供する。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、思い出アルバムを送ったり、電話での問い合わせを行ったりしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに生きてきた道があり、それはみんな違う。同じものを見ても、同じ言葉でも、感じ方はそれぞれ違うものである。高齢者の方々は生きてきた道の影響が大きいものである。私たちが知らない思いや世界を持っていると知って、尊重しようという気持ちを持って対応する。特に家に帰りたいという思いは、その気持ちを分かる余と受け入れた対応も必要である。スタッフでよく話し合い対応方法を導く。	出来る限り思いや暮らし方が実現出来るよう支援している。職員は利用者の思いを汲み取り家族の了解のもと、夫の命日に職員と墓参りに出掛けた事例もある。利用者からの希望の把握が困難な場合、日々の生活の中で思いを汲み取り希望に応えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者が高齢者である限り、私たち職員が知らない時間がたくさんあるという事を職員一人一人がよく心に留めておく必要がある。家族からの情報や本人の断片的な言葉を想像力をもって、愛情をもってしっかり聞き対応していく姿勢を持つ。本人の喜びや楽しさの感情を導き共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の中には、好きな時に寝て、起きて、好きな時に食べたい方もいるし、規則正しい生活が当たり前の方もいる。嗜好品や生活習慣も、本人の経験によって違ってくる。個人アセスメントを行い心身状況の現状把握と共有に勤め、画一的な過ごし方にならずその人らしさを尊重している。		

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者の生活状況や楽しさを感じる事や出来ることを見極めたうえで、プランを策定し、ご家族と共有する。家族からの情報や希望を聞き訂正を行い、実際に出来ることを導くようにしている。</p>	<p>介護計画は計画作成担当者が行っている。モニタリングは6か月に1回、本人、家族の意見を中心に、必要な関係者が現状に即した計画を作成している。又、ケアミーティングを行い、状態の変化がある場合は、評価、見直しを行い介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子を個別記録に記入している、なるべく本人の発した言葉や表情、いつもの変わらずにしていることも大事な情報として記入するようにしている。日々の暮らしの中でケアプランを実践し毎月評価を行い共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ感染対策を行うようになってから、他部署の高齢者とかかわりは皆無になり、地域に出ることもなくなった。感染対策最優先での支援に切り替えないと施設内感染のまん延を起してしまつては元も子もないので、致し方ない現状であるが、中でもドライブで外出(四季を感じる)や会食の工夫など出来ることを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域との直接的関りはなくなったが、できる限りのお出かけや、墓参り、自宅の訪問などを行う。本人のルーツを感じれる支援をしていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族やご本人の意向を確認しながら主治医の選定をしている。ほとんど往診されているが、2名コロナ感染対策下ではあるが、定期受診をしておられる。持っている病気によって医療依存度も違い、家族の考えによっても左右されるものである。主治医と良い関係を保ちながら、本人御家族に還元していきたい。</p>	<p>事業所の協力医及び利用前より馴染みのあるかかりつけ医が定期的に往診している。緊急時の対応は協力医や以前からのかかりつけ医、訪問看護など利用者個々に応じた連絡方法の一覧表をもとに対応している。歯科も定期的に往診しており必要時は他科への受診もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回の訪問看護による状態把握をお願いしている。急な発熱など急変時の報告先となっている。日々の生活の中では、施設内の看護職員に皮膚の異常や転倒・体調不良などの対応を依頼している。コロナ感染に対応して酸素濃度も測定している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院が必要になった場合の、看護サマリの作成やmswとの連絡相談を行っている。退院時期には、情報を把握して退院後の生活に備えている。家族にも情報を得ながら、早期退院につながるように対応している。ご家族の病状理解の不明点にも対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居者様の中には、特養の入居を希望されている方も、当施設で最期までと考える方もある。現状の体調の共通理解をしながら、意向を確認し、当施設での出来る支援について説明を行っている。新規入居時に、看取りの希望の確認しているが、入居後に心境の変化もあるのでその都度、家族の考えを聞いている。</p>	<p>利用開始時に家族等に説明を行い、重度化した場合改めて家族と話し合い同意書を交わし、方針を共有し支援する体制がある。最近は事業所での看取りはあまりなく医療機関等へ転院している。職員は家族の気持ちに寄り添いながら、安心して支援が出来るよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急な発熱、誤嚥・窒息、転倒転落などに加え新型コロナウイルス感染対応などを含めた研修・実習を行っている。実際に事故や突発的な体調変化が起きた時には、その対応を職員間で共有し、経験値を増やせるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域との「災害協力体制」を締結している。消防訓練を年2回行い、水・食料の備蓄も3日分はある。停電に備えた懐中電灯や電池も準備している。大雨・大雪が懸念される時には、管理者・施設長補佐が泊りで待機をした。</p>	<p>年2回定期的に避難訓練を行っている。地域との連携は法人が災害協定を交わし、協力体制を構築している。エリア的には山が有り、位置、危険性は把握している。事業所は有事には地域住民に対して受け入れ態勢があり、備蓄は3日分確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今年度の職業倫理の実践、取り組みは、利用者様を名字にさん付けで呼ぶ、言葉使いを丁寧にすることを上げて取り組んでいる。排泄介助時・入浴時の配慮や居室に入る時にはノックをするなどプライバシー保護、いつも親切で利用者の気持ちが上向きになるような言動・態度で利用者に関わるように心がけている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し情報を共有している。職員は日頃の声掛けやドアの開閉等、プライバシーを守る対応に取り組み、また職員研修は接遇、権利擁護関係等を行い、個々の人格を尊重する大切さを共有しながら支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ささやかな事であっても、ご本人の気持ちや希望を表出できるような問いかけや関係の構築をするように注意している。職員主導で時間が流れないように、配慮する。日々のケアの中で、利用者の希望の表出ができる様な声かけについて、ミーティングで話し合いを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者の様子を把握しながら、一人一人との関わりを持つようにしている。しっかり話を聞いたり、楽しい会話をしたりすることで、その人らしさが出せるものである。入浴は個別対応となるので、ゆっくりと話を聞いている。業務優先ではなく、手を止めて利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容・整髪時にお化粧をされる方もおられるので対応している。理美容サービスを入れ、白髪染めやパーマを定期的に行っている。また、衣類の選択は本人の意向を尊重するようにしている。髭剃りも毎日行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、人にとって最も身近な楽しみと言える。また、準備や片付けに関わって頂いたり、配膳時にゆっくり優しく声をかけをおこなっている。季節や行事に応じた食事、誕生日のケーキ、季節の果物などを楽しむようにしている。	日常は関連グループの厨房から料理が届いている。季節の旬の食材を取り入れた行事食や、日頃から刺身やお寿司を取り入れている。現状では外食は行われていないが、屋上でコーヒーなどおやつタイムを設けたり、職員はマンネリ化しないよう、工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェック・体重測定は全員行っている。必要に応じて、細かな摂取量の把握、水分摂取量把握を行っている。貧血・栄養状態を見ながら、栄養補助食品、嚥下障害に対応した食事内容などを工夫し、楽しむ食事、栄養満点の食事を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔衛生・ケアを行い、問題が生じた場合には歯科に相談を行っている。義歯管理や口腔内の観察を習慣的に行っている。口臭がきつい方は、主治医に相談したこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は一人一人チェックを行っている。排泄行為時の転倒予防や安全確保には十分に配慮し環境を整えている。立位保持困難な入居者も、ポータブルトイレを使用し座っての排便を行っている。できるだけパットやおむつではなく、トイレで排泄が出来るようにしている。	トイレは各部屋に有り、排泄表を通じて誘導の機会を把握し支援している。夜間はポータブルトイレやセンサーを利用し、転倒防止の家具の配置にも配慮している。排泄の自立に向けた支援に努め、便秘の対応も薬に頼らず、出来るだけ運動や食事、水分摂取を工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便習慣を知り、体を動かすことや、水分・乳製品の摂取・食事の工夫などを行っている。特に水分補給は、こまめに再々提供することを心がけている。看護師による腸蠕動確認や直腸内の便の確認を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は最高のリラックスタイムになる、職員とも個別でのかわりをゆっくり持てる時間にもなっている。入浴に拒否的な方には、なじみの関係作りや複数人でのかわりの持ち方などの工夫をしている。	入浴の頻度は週2~3回午後より、利用者一人ひとりの暮らし方や希望に合わせて、快適な入浴を行っている。困難な場合にはタイミングが合った時に入浴して貰う等、工夫しながら支援を行っている。今は該当する利用者はいないが、近くの開連施設で機械浴も利用できる。	

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の年齢・体調・精神状態に合わせて、休息を取ってもらうようにしている。夜間の覚醒には、お付き合いをして、気持ちよく再入眠できるように関わっている。睡眠パターンを知り、共有しケアに生かしている。一人一人の年齢・体調・精神状態に合わせて、休息を取ってもらうようにしている。夜間の覚醒には、お付き合いをして、気持ちよく再入眠できるように関わっている。睡眠パターンを知り、共有しケアに生かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の薬剤管理指導を受けている。内服薬の内容、使用目的などを共有し、薬の変更や一時的な抗生剤の内服などの薬剤管理にも、主治医の指示がタイムリーに服薬に結びつくようにしている。浮腫や高血圧、徐脈などは主治医と連絡を取り、医師の指示で内服薬変更に結びつく事が有る。服薬ミスが皆無となるように、ルール化して確認を怠らない介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活リズムを整え、役割を持つてもらえるようにしている。(洗濯もの、食器拭きなど)誕生会、花見ドライブ、息抜き散歩・ドライブ、敬老会などお楽しみはその日だけでなく準備段階から、利用者を巻き込んでワクワクしてもら得るように工夫をしている。葉ボタンを種巻きから行い成長を楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は、新型コロナ感染対策下では難しいが、敷地内で、毎日ベランダ歩行を行う、施設の庭を見に行く、屋上でお茶会をするなどして気分転換を図っている。	現在は出掛ける事が困難な状況下で、職員は”利用者が感じる外出”を考え、天気の良い日はベランダで外の風を楽しんで貰っている。また敷地内の幼稚園の花壇まで散歩をする等、職員は出来る限り日常的に出掛けられるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、新型コロナ感染対策のため、御家族との外出、職員との買い物などは一切行っていない。Withコロナ時代に向けて、方法を思案している。		

自己評価	外部評価	項目(エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	新型コロナ感染対策のため、面会が一切できず、外出もままならない日々である。電話やビデオレター、などを使い御家族との交流を行っている。差し入れを持ってこられた時に、離れた距離で姿を見ていただくなども行って、顔を見てもらう機会を作っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るくなったらカーテンを開け、ご自身で天気を確認できるようにしている。午前中の日差しを使って日向ぼっこを取り入れている。季節の花(アジサイ・彼岸花・カーネーション)を飾ることで季節感を出している。カウンターを使ってお茶をしたり、ソファを置いて休憩できるようにしている。	居心地よいリビングの壁には、職員と利用者が作った季節の作品が飾ってある。外出が出来ない現在はリビングでは季節ごとに行事を行い、クリスマス会や敬老会は勿論のこと、時には室内運動会を開催したり、お正月には手作りの鳥居を設置するなど、楽しい共有の場所となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間での、テーブルの配置で、仲のいい方が談笑できるように、また、トラブルが発生しにくくなるように工夫をしている。カウンターやソファなど遠慮なく利用してもらえるように声をかけている。居室への出入りは自由意志で行ってもらい、一人で過ごされることもできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は持ち込んで頂き慣れ親しんだものを使ってもらっている。家族の写真などを置いたり、自分の習字などの作品を飾っている方もある。転倒リスクが最低限となり、ご本人が安心できる空間を提供できる様にしている。	職員は利用者一人ひとりが大切にしているものを把握するようにしている。居室入口は利用者が迷わないよう、名前や印の飾り付けが掛けてある。居室はベッド、洗面台とトイレが備え付け、テーブルやイスを設置している利用者もおり、自由に過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、ベットや家具・椅子などのレイアウトは自由に決める事が出来るようにしてある。利用者の身体状況に応じた快適な空間作りを行う。居室内では、自分なりに自由に過ごしていただくようにしている。転倒リスクに配慮した、家具の配置や居室内の動線を工夫している。		

V アウトカム項目(エーデルワイス) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	I G Lの理念は「隣人愛」である。事業所理念は「地域から、入居者から、愛される施設」、利用者に対しては「あなたでよかったと言ひ合える関係作り」理念として挙げている。4月の施設内研修では、I G Lの理念を実践を「仕事の約束」という冊子を作り理念の共有のため読み合わせをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の季節の行事には積極的に参加を行っていたが、新型コロナウイルスの流行、感染対策のため、事態は一変しており、現在は季節のドライブを行う程度しか外には出ていない。交流も断たれた状態である。コロナ下での地域交流は大きな課題となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の理解や関わり方や、当施設の認知度を上げるための活動等、して行きたいのは山々だが、現状は利用者をコロナ感染から守る事を最優先にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	通年を通して、地域の民生委員・関連施設・訪問看護や地域の社協の方などにお越しいただき、入居者様にも参加していただき開催していたが、この3年間開催は施設内の職員入居者様のみで、施設外の方々にはF A Xでの情報共有とさせて頂いている。昨年指定を受けた、推進委員会での報告事項に関するご意見を頂けるようにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市には、施設内で行った運営推進会議内容を報告している。認知症リーダー研修参加、We b研修での認知症基礎研修参加を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、I G L内での全体研修に加え、施設内・G H内でも研修を行ってきた。基礎的知識は資格の有無に係わらずついてきているが、リスクを取るばかりに、行動を制限することが無いようにその都度職員同士での話し合い、グレーゾーンを意識するようにしている。玄関施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については、身体拘束と同様の取り組みを行っている。認知症高齢者であり、家族の面会も皆無となると、知らず知らずのうちに、スタッフ優位の関係に陥りやすい事を意識し、利用者への言動や言葉使いや呼び方などについて注意喚起を行っている。今年度は、利用者への態度を特に意識して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	虐待と同様に権利擁護についても研修を行っている。利用者が、自分本位で選択をし、自分の尊厳(自分らしさ)を守られながら暮らすとは、利用者が日常的に不安や心細さや遠慮を感じずに、晴れやかな気持ちで過ごせる事である。日々の行うケアで、対象を尊重した態度を常にとるように指導を行っている。施設内の社会福祉士より、成年後見についても学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度の新規契約は、現在3件である。運営規定・利用料金・重要事項説明書の説明を行い、何度も連絡を取りながら疑問点にはこらえるようにしている。情報の不均衡が生じ、説明が専門用語で分からない事もあるので、理解を確かめながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会制限があるため、施設内の生活の状況が、利用者の家族には見えにくくなっている。家族の一番の願いは、顔を見て話したい、姿を見たいという事と感じている。ガラス越し面会などを取り入れている。コロナ発生時などは、電話・ショートメールを活用し毎日状況報告を行い、話しやすい雰囲気を作り必ず、不明点や、疑問点があればなんでも話していただくようにそのたびに声をかけている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	介護現場に、介護職員とともに管理者がいるので、いつでも聞ける体制となっている。今年2月には、施設長面談があり、1人30分に及ぶ面談を行った。毎月のミーティングでも、ケア方法に関する意見や業務に関する意見を出し合う。平素の職員の人となりを知り話しやすい雰囲気を作るように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長補佐、管理者、チーフ間で。職員の勤怠の把握や家庭の事情や本人の体調などを汲んだ勤務体制作り、認知症ケアにおける対応方法や考え方の指導を行い、一緒に試行錯誤する場を作るようにしている。マイナス点ばかりを指摘せず、話をじっくり聞き、よく理解したことを示したうえで指摘をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	最近はズーム研修も多くなっているので、時間を作り研修を受けるようにしている。施設内研修の講師を、職員に担当してもらう事でケアの学習の機会にしている。新規採用者には施設長補佐・管理者がオリエンテーションを行い相互理解に役立っている。施設長補佐・管理者・チーフで、ケアに問題がある時は情報共有し対応するようにしている。話しやすい環境作りを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染対策のために、同業者との直接的な交流がなくなっている。必要に応じて電話やメールを活用している。コロナ感染対策や発症時の対応などについて情報交換することが多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今年度は新規利用者が現在3名である。新型コロナウイルス感染対策のために入居したら面会が出来なくなることへの負担感をご家族にあり、いつでも会えるから、もう会えないとなりさみしさを隠し切れない様子である。新規利用者のリスク管理に配慮しながら新しい生活の慣れて行くための支援とともに家族への支援にも力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	前項でも記入したが、コロナ感染対策のための面会謝絶に伴い、ご家族には余計に不安の増強がみられる。入居後の様子を伝えるとともに、ご家族からの情報に耳をから向け、信頼関係を結び話しやすく何でも言っで貰えるように関係作りを行う。逆に、かかわりを持ちたくないと思う家族もいらっしゃるのでは、事情をよく把握する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入居の際に、必要なサービスの選定については、医療的な側面での主治医変更か続行かという事、ADL上の問題での福祉用具の使用の有無、栄養面での問題の有無などがある。課題を提示し職員間で共有・観察を行い、利用者の生活の様子を把握し解決していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ともすると、生活の場が職員の業務遂行の場になってしまう可能性がある。利用者が、生活者としての活動を行い実感できるような環境を作り、ささやかな事であっても、自分で行い役に立っているを実感・満足できる生活を送って頂けるよう職員が関わりを持つようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは、特に親子とは、切っても切れない関係で結ばれている。年を取った親に「忘れられてしまうのではないか」「次に会ったときは名前を言っても分からないのではないか」という不安を持っているご家族も少なくない。生きているだけでいいと言われる方もある。面会・連絡の工夫をして、家族の気持ちに答える支援をしていく。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者には、今まで生きてきた人生があり、懐かしい方や家族同然の方や、遠方に住む親族などかけがえの無い存在がいるものであると、職員全員が理解をして、写真や電話やビデオ通話などを使って関係を保つ。また普段の会話でも、話題に出して利用者の話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	9名のユニットでの日々の生活の中での仲間さん作りを行う。毎日、レクや体操やゲームを行ったり、気の合う仲間と散歩を楽しんだりしてお互い様の関係を構築できる様に関わる。会話や一緒に声を出す、何かを作るなどの場を積極的に提供する。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、思い出アルバムを送ったり、電話での問い合わせを行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに生きてきた道があり、それはみんな違う。同じものを見ても、同じ言葉でも、感じ方はそれぞれ違うものである。高齢者の方々は生きてきた道の影響が大きいものである。私たちが知らない思いや世界を持っていると知って、尊重しようという気持ちを持って対応する。特に家に帰りたいという思いは、「その気持ちを分かるよ。」と受け入れた対応も必要である。スタッフでよく話し合い対応方法を導く。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者が高齢者である限り、私たち職員が知らない時間がたくさんあるという事を職員一人一人がよく心に留めておく必要がある。家族からの情報や本人の断片的な言葉を想像力をもって、愛情をもってしっかり聞き対応していく姿勢を持つ。本人の喜びや楽しさの感情を導き共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の中には、好きな時に寝て、起きて、好きな時に食べたい方もいるし、規則正しい生活が当たり前の方もいる。嗜好品や生活習慣も、本人の経験によって違ってくる。個人アセスメントを行い心身状況の現状把握と共有に勤め、画一的な過ごし方にならずその人らしさを尊重している。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の生活状況や楽しみを感じる事や出来ることを見極めたうえで、プランを策定し、ご家族と共有する。家族からの情報や希望を聞き訂正を行い、実際に出来ることを導くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別記録に記入している、なるべく本人の発した言葉や表情、いつもの変わ図にしていることも大事な情報として記入するようにしている。日々の暮らしの中でケアプランを実践し毎月評価を行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ感染対策を行うようになってから、他部署の高齢者とかかわりは皆無になり、地域に出ることもなくなった。感染対策最優先での支援に切り替えないと施設内感染のまん延を起してしまっは元も子もないので、致し方ない現状であるが、中でもドライブで外出(四季を感じる)や会食の工夫など出来ることを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との直接的関りはなくなったが、できる限りのお出かけや、墓参り、自宅の訪問などを行う。本人のルーツを感じる支援をしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は、ご家族やご本人の意向を確認しながら受診・往診を行われている。ほとんど往診を依頼できているが、2名コロナ感染対策下ではあるが、定期受診をしておられる。持っている病気によって医療依存度も違い、家族の考えによっても左右されるものである。主治医と良い関係を保ちながら、本人御家族に還元していきたい。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護による状態把握をお願いしている。急な発熱など急変時の報告先となっている。日々の生活の中では、施設内の看護職員に皮膚の異常や転倒・体調不良などの対応を依頼している。コロナ感染に対応して酸素濃度も測定している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合の、看護サマリの作成やmswとの連絡相談を行っている。退院時期には、情報を把握して退院後の生活に備えている。家族にも情報を得ながら、対応できる範囲を伝え早期退院につながるように対応する。ご家族の病状理解の不明点の対応なども親切に行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者様の中には、特養の入居を希望されている方もある、当施設で最期までと考えておられる方もある。現状の体調の共通理解をしながら、意向を確認し、当施設での出来る支援について説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急な発熱、誤嚥・窒息、転倒転落などに加え新型コロナ感染対応などを含めた研修・実習を行っている。実際に事故や突発的な体調変化が起きた時には、その対応を職員間で共有し、経験値を増やせるようにする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との「災害協力体制」を締結している。消防訓練を年2回行い、水・食料の備蓄も3日分はある。停電に備えた懐中電灯や電池も準備している。大雨・大雪が懸念される時には、管理者・施設長補佐が泊りで待機をした。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今年どの職業倫理の実践、取り組みは、利用者様を名字にさん付けで呼ぶ、言葉使いを丁寧にするを上げて取り組んでいる。排泄介助時・入浴時の配慮や居室に入る時にはノックをするなどプライバシー保護、いつも親切で利用者の気持ちが上向きになるような言動・態度で利用者に関わるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ささやかな事であっても、ご本人の気持ちや希望を表出できるような問いかけや関係の構築をするように注意している。職員主導で時間が流れないように、配慮する。日々のケアの中で、利用者の希望の表出ができる様な声かけについて、ミーティングで話し合いを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者の様子を把握しながら、一人一人との関わりを持つようにしている。しっかり話を聞いたり、楽しい会話をしたりすることで、その人らしさが出せるものである。入浴は個別対応となるので、ゆっくりと話を聞いている。業務優先ではなく、手を止めて利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容・整髪時にお化粧をされる方もおられるので対応している。理美容サービスを入れ、白髪染めやパーマを定期的に行っている。また、衣類の選択は本人の意向を尊重するようにしている。髭剃りも毎日行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、人にとって最も身近な楽しみと言える。また、準備や片付けに関わって頂いたり、配膳時にゆっくり優しく声をかけをおこなっている。季節や行事に応じた食事、誕生日のケーキ、季節の果物などを楽しむようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事量のチェック・体重測定は全員行っ ている。必要に応じて、細かな摂取量の 把握、水分摂取量把握を行っている。貧 血・栄養状態を見ながら、栄養補助食 品、嚥下障害に対応した食事内容など を工夫し、楽しむ食事、栄養満点の食事 を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔衛生・ケアを行い、問題が生 じた場合には歯科に相談を行っている。 義歯管理や口腔内の観察を習慣的に行っ ている。口臭がきつい方は、主治医に相 談したこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄は一人一人チェックを行っている。排 泄行為時の転倒予防や安全確保には十分に 配慮し環境を整えている。介護5の方も、 ポータルトイレを使用し座っての排便を 行っている。排泄パターンを知り、排泄行 動の転倒リスクを低減したことで、リハバ ンから布パンツに移行できたケースがあっ た。排泄習慣を把握し、自立支援を行っ ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便習慣を知り、体を動かすこと や、水分・乳製品の摂取・食事の工夫な どを行っている。特に水分補給は、こま めに再々提供することを心がけている。 看護師による腸蠕動確認や直腸内の便の 確認を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	状態により、個浴・機械浴を選択してい る。入浴は最高のリラックスタイムにな る、職員とも個別でのかかわりをゆっく り持つ時間にもなっている。入浴に拒 否的な方には、なじみの関係作りや複数 人でのかかわりの持ち方などの工夫をし ている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の年齢・体調・精神状態に合わせて、休息を取ってもらうようにしている。夜間の覚醒には、お付き合いをして、気持ちよく再入眠できるように関わっている。睡眠パターンを知り、共有しケアに生かしている。一人一人の年齢・体調・精神状態に合わせて、休息を取ってもらうようにしている。夜間の覚醒には、お付き合いをして、気持ちよく再入眠できるように関わっている。睡眠パターンを知り、共有しケアに生かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の薬剤管理指導を受けている。内服薬の内容、使用目的などを共有し、薬の変更や一時的な抗生剤の内服などの薬剤管理にも、主治医の指示がタイムリーに服薬に結びつくようにしている。浮腫や高血圧、徐脈などは主治医と連絡を取り、医師の指示で内服薬変更に結びつく事が有る。服薬ミスが皆無となるように、ルール化して確認を怠らない介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活リズムを整え、役割を持ってもらうようにしている。(洗濯もの、食器拭きなど)誕生会、花見ドライブ、息抜き散歩・ドライブ、敬老会などお楽しみはその日だけでなく準備段階から、利用者を巻き込んでワクワクしてもらるように工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は、新型コロナ感染対策下では難しいが、敷地内で、毎日ベランダ歩行を行う、施設の庭を見に行く、屋上でお茶会をするなどして気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、新型コロナ感染対策のため、御家族との外出、職員との買い物などは一切行っていない。Withコロナ時代に向けて、方法を思案している。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	新型コロナ感染対策のため、面会が一切できず、外出もままならない日々である。電話やビデオレター、などを使い御家族との交流を行っている。差し入れを持ってこられた時に、離れた距離で姿を見ていただくなども行って、顔を見てもらう機会を作っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るくなったらカーテンを開け、ご自身で天気が確認できるようにしている。午前中の日差しを使って日向ぼっこを取り入れている。季節の花(アジサイ・彼岸花・カーネーション)を飾ることで季節感を出している。カウンターを使ってお茶をしたり、ソファを置いて休憩できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間での、テーブルの配置で、仲のいい方が談笑できるように、また、トラブルが発生しにくくなるように工夫をしている。カウンターやソファなど遠慮なく利用してもらえるように声をかけている。居室への出入りは自由意志で行ってもらい、一人で過ごされることもできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は持ち込んで頂き慣れ親しんだものを使ってもらっている。家族の写真などを置いたり、自分の習字などの作品を飾っている方もある。転倒リスクが最低限となり、ご本人が安心できる空間を提供できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、ベットや家具・椅子などのレイアウトは自由に決める事が出来るようにしてある。利用者の身体状況に応じた快適な空間作りを行う。居室内では、自分なりに自由に過ごしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(アルペンユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 IGLグループホーム西風新都

作成日 令和4年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の資料(会議録)をご家族への送付をしていなかった。	運営推進会議の資料をご家族へ送付し、サービスの内容を知っていただく。	請求書送付時に運営推進会議の会議録を同封する。	1年間
2	23	ご利用者の思いを大切にされた対応を心掛けようと思うが、職員本位の対応となることがある。	お一人お一人の思いを尊重し、その方の思いを受け入れる。	ご利用者の話を否定せずに傾聴する。 ケアミーティングの時にご利用者への対応を確認し合う。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。